

施策番号 2-1-2	施策名 社会教育の推進	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり			
		政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実			
	主管課	社会教育課	課長名	日下勝祐	内線	517
	施策関係課	学校教育課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
学習機会や場の提供など学習環境の充実を図るとともに、自発的な取組への支援を図ります。		町民	・「いつでも」「どこでも」「だれでも」が学ぶことができる学習環境を整備する				町民一人ひとりが自ら進んで学習に取り組み、人と人がふれあい、心豊かに充実した生涯を過ごせるまちづくり
成果指標	説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標	
① 児童生徒の社会教育事業への参加者数	社会教育課調べ	人	1,313	881	300	1,190	
② 生涯学習の機会が充実していると思う町民の割合	住民意識調査	%	39.1	75.4	50.0	45.0	
③							
④							
成果指標設定の考え方	①児童生徒数の減少率を考慮するも参加率を維持するもの。 ②前期計画で達成できなかった40%の目標値を超える評価を目指すもの。 (※住民意識調査の回答項目を5択→4択に変更)						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費(千円)	148,955	115,606
人工数(業務量)	3.4688	3.7783

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①参加者減の要因は読書感想文コンクールの応募者数と子ども楽習塾の内容見直しによるもの。コロナ対策による事業中止も含まれる。 ②教委事業のほか青少協やPTA連合会、子ども会など社会教育関係団体の活動が評価されたと認識しており、更なる事業充実に努める。
②2022年度の目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	児童生徒の社会教育事業への参加については、今後コミュニティスクールにおける地域学校協働活動やジモト大学事業を積極的に推進することにより達成可能。 また、生涯学習機会の充実では、公民館や図書館講座、高齢者学級の実施のほか、社会教育関係団体の活動充実により達成可能。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	少年教育活動事業 地域子ども会育成連絡協議会支援事業 家庭教育学級活動支援事業 図書館ボランティアサークル活動支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	地域子ども会の活動では、令和元年度に新たな試みとして、商工会青年部が主催する「めむろ夏フェス」に専用ブースを設置し事業参加した。今後も各種団体との連携活動に積極的に参加することとしたい。 家庭教育学級の活動では、身近な課題を取り上げ実践的な勉強会として「めむろ家庭教育学級講演会」を開催し、学習機会と意見交換の場の確保に努めた。 図書館事業では、時事問題に対して提供できる図書の特別提示を行うとともに、図書館内外でのイベント開催により読書推進に努めた。 また、ボランティアの方々の継続支援により各種事業が安定的に実施できた。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の概念である「いつでも・どこでも・誰でも」自由に学べる学習環境の整備 →学習形態の多様化に対応するための住民ニーズに沿った事業検討(各種講座開催など)。 →高齢者学級の学習プログラムの見直しや通園のための交通手段の確保。 ・子ども、子ども会活動の減少 →広域活動や各種団体活動との連携による活動機会の確保と充実。 ・コミュニティスクールの取組による地域教育力の向上。学校・家庭・地域・行政による連携強化と事業実施。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールへの積極的な住民参加。 ・子ども会活動の多様化(単位会の減少や役員のなり手不足解消のため)。 ・公民館の施設充実(避難所としての機能強化)。 ・図書館のエアコン空調の設置。

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育推進中期計画(H31-R4)の着実な推進 →コミュニティスクールの推進。地域学校協働活動の推進による学校・家庭・地域・行政の連携強化。 →ジモト大学事業の実施。持続可能な地域社会の創り手育成のため、コミュニティスクール活動と連携し実施。 →高齢者学級の学習プログラムの随時見直しと、通園のための交通手段の確保。 →ネットトラブル等に対する青少年健全育成として、「芽室町スマホ・ケータイ・ネット親子のルール宣言」の更なる周知活動。 ・社会教育施設の有効活用と維持管理 →公民館の機能整理(教育委員会事務所移転後) →図書館機能の再点検(図書、視聴覚備品等のあり方) →かつこう、ねんりんの運営方法と維持管理。
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	住民意識調査の選択項目減により、成果指標が大きく増加したが、社会教育関係団体の活動充実も指標増加の一因と考えられることから、策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	コミュニティスクールやジモト大学など、新規事業について広く町民に周知しながら進めてもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した 				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	ICT教育の推進に向けて準備が進められていることから、策定時と比較して前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館のWi-Fi整備について、できるだけ早く整備してもらいたい。 ・住民意識調査の生涯学習に関する設問では、「生涯学習」とは何かを記載した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> A: 実現した B: (前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (前期実施計画策定時と比較して)前進した D: (前期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (前期実施計画策定時と比較して)後退した 				